

保健体育科学習指導案

学 級： 2 年 2 組 3 0 人
(男子 14 人 女子 16 人)

場 所： 体 育 館

指 導 者： 教 諭 永 野 麻 理

1 単元名 ダンス (創作ダンス)

2 単元について

(1) 教材観

- ア 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しみや喜びを味わうことができる運動である。
- イ 感じを込めて踊ったり、みんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えて表現や踊りを通じた交流ができるようにする運動である。
- ウ ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」「現代的なリズムダンス」で構成され、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動である。
- エ ダンスはリズムカルな全身運動であり、ダンスを継続することで、柔軟性、平衡性、筋持久力などをその動きに関連して高められる運動である。
- オ 仲間と協力して、動きを合わせて踊ったり、イメージを捉えて表現できたりした時に楽しいと感じる運動である。
- カ リズムに乗って精一杯体を動かしたり、互いに表現を認め合ったりして学習することで、互いの運動意欲が高まる運動である。
- キ うまく表現できなかつたり、人前で踊ることが恥ずかしいと感じたりして気持ちが消極的になると楽しさを感じない運動である。

(2) 生徒観

ア 実態調査【調査日：9月10日，調査対象30人（回答数28人・未実施2人）】

1	体育の授業は好きですか。 (はい 23人 いいえ 5人)
2	これまでの体育の授業で、できなかったことができるようになったことはありますか。 (はい 25人 いいえ 3人) 「はい」と答えた人は、どのようにしてできるようになりましたか。(複数回答) ・ 先生や友達にアドバイスをもらった。(22人) ・ 自分で考え、何度も繰り返し練習した。(12人) ・ 手本となるもの(本や映像)を真似した。(6人) 「いいえ」と答えた人は、どうしてできるようにならなかったと思いますか。 ・ どのように体を動かしたらいいか、行い方がわからなかったから。(2人) ・ 何度練習しても思うように体が動かさなかったから、途中で諦めたから。(1人)
3	友達にアドバイスをすることは得意ですか。 (得意 0人 どちらかといえば得意 12人 どちらかという苦手 10人 苦手 6人) 「どちらかといえば苦手」・「苦手」と答えた人は、なぜですか。 ・ アドバイスの仕方がわからない。(8人) ・ 上手に伝えられない。(3人) ・ 言葉に表すのが苦手。(3人) ・ 自分も分かっていないから、アドバイスできない。(1人) ・ 友達に「御節介」と思われるかもいけないから。(1人)

4	ダンス（音楽に合わせて体を動かすこと）は好きですか。 （好き 9人 どちらかといえば好き 13人 どちらかという嫌い 4人 嫌い 2人 ） 「どちらかといえば嫌い」・「嫌い」と答えた人は、なぜですか。（複数回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現の方法がわからない・難しい。 （ 8人 ） ・ 恥ずかしい。 （ 3人 ） ・ 覚えられない。 （ 2人 ）
5	創作ダンスの授業であなたが望むことはどんなことですか。（複数回答）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力するなどコミュニケーションの力を高めたい。 （ 19人 ） ・ 思いっきり身体を動かし、体力を高めたい。 （ 18人 ） ・ 色々な練習に興味をもち、積極的に取り組みたい。 （ 9人 ） ・ 創作ダンスに必要なイメージや表現の仕方を身に付けたい。 （ 4人 ） ・ ダンスに関係する知識を学びたい。 （ 3人 ）

イ 考察

実態調査より、体育の授業について、多くの生徒が体育の授業を好きと答え、これまでに体育の授業でできるようになった経験を持つ生徒が9割近くいた。中でも教師や友達からのアドバイスをもらい、できるようになった生徒が8割近くいた。この成果は、これまでの授業で、インターアクションの充実や、アドバイス学習の機会を意図的に設定し、取り組ませてきたからではないかと考える。また、ダンス（音楽に合わせて体を動かすこと）については、好意を持っている生徒が8割近くいた。この成果は、これまでのダンスの授業で、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊るように、示範を行いながら取り組ませてきたからではないかと考える。

しかし、今後の課題として3つあげられる。1つ目の課題は、これまでの体育の授業においてできるようになった経験がない生徒が1割いることが分かった。これは、これまでの授業において、教師の関わりが少なかったり、生徒の助け合い学び合うことができなかつたりしたからではないかと考えられる。そこで、できる喜びを感じさせるために、個々における教師の関わり方やグループ活動、アドバイス学習を充実させるための指導の工夫をしたい。

2つ目の課題は、友達へアドバイスをすることに苦手意識を持っている生徒が6割近くいることが分かった。その理由として、「アドバイスの仕方がわからない」、「上手に伝えられない」、「言葉に表すのが苦手」などがあげられた。これは、アドバイス学習の意義が適切に理解できていないことが考えられる。そこで、アドバイスをすることは、運動技能のポイントを指摘するだけでなく、友達の動きを見て感じたことや考えたことを伝えることも大切であることを再確認させたい。また、アドバイスをすることで、技術の習得や肯定的な人間関係づくりにつながることを理解させたい。

3つ目の課題は、ダンス（音楽に合わせて体を動かすこと）を「どちらかという嫌い」・「嫌い」と思っている生徒が2割いることが分かった。その理由として、「表現の仕方がわからない・難しい」、「恥ずかしい」などがあげられた。これは、イメージを捉えて表現した経験が少なかつたり、肯定的な人間関係がつかられていなかつたりしたためではないかと考えられる。そこで、毎時間の導入でエアロビクスを取り入れ、定型的な動きを行ったり、ペアでイメージを即興的に表現することを組み入れたりしたい。

単元の指導計画については、単元の前半で、多様なテーマからイメージを膨らませて、思い浮かぶ特徴的な動きを即興的に表現させたい。単元の後半では、仲間と協力して、動きを合わせて踊ったり、イメージを捉えて表現したりしながら、変化のあるひとまとまりの表現にする経験を通じて、ダンスの楽しさや喜びを味わわせ、交流させたい。

(3) 指導観

ア 教師の関わり方の工夫

(7) 思考・判断を促す発問

判断基準Bを基に生徒の表現例を想定し、授業の各過程における発問を作成する。

- 導入で、学習意欲を喚起し、本時の学習目標を確実に捉えさせる発問をする。
（教科紀要：図2-①「注目・発見機能」）
- 展開では、助け合い、学び合いの中で、課題解決をより確実に導くような発問をする。

(教科紀要：図2-③「深化・拡充機能」，図2-④「入手・獲得機能」，図2-②「修正・訂正機能」，図2-⑤「上達・習熟機能」)

- 終末では，学習目標と対応させてまとめさせる発問をする。

(教科紀要：図2-⑤「上達・習熟機能」)

発問する際は，タイミングや表情，言葉遣いなどを意識しながら行い，課題解決に向けて主体的に考え，意欲的に活動したくなるように指導する。

(イ) 効果的なタイミングで行う肯定的・矯正のかつ具体的なフィードバック

積極的に生徒とふれあい，褒めたり，励ましたり，肯定的で具体的なフィードバックや矯正的で具体的なフィードバックを行わせる。

イ アドバイス学習や話し合いタイムの工夫

(7) 運動技能のポイントを理解するための学習資料の提示

基礎的な知識をより確実なものにするために学習資料を提示する。

(イ) アドバイス学習や話し合いタイムの効果的な学び方の定着

技術の習得及び肯定的な人間関係づくりを図るために，アドバイス学習を取り入れる。また，話し合いタイムを設定する。

- アドバイス学習の意義を再確認させるための学習資料を提示する。
- 話し合いタイムⅠでは，前時に選択した表現の仕方を確認させる。
- 話し合いタイムⅡでは，本時の課題発見と次時の表現の仕方の選択を行わせる。

(ウ) 課題に応じた表現の仕方を選択するための学習資料の活用

グループの課題を見付けさせるために学習資料を活用させたり，グループの課題に応じて選択させるためにさまざまな表現の方法を提示したりする。

3 単元の指導目標

- 創作ダンスでは，多様なテーマから表したいイメージを捉え，動きに変化を付けて即興的に表現したり，変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができるようにする。(技能)
- 創作ダンスに積極的に取り組むとともに，よさを認め合おうとすること，分担した役割を果たそうとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。(態度)
- 創作ダンスの特性，表現の仕方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識，思考・判断)

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 運動への 関心・意欲・態度	イ 運動についての 思考・判断	ウ運動の技能	エ 運動についての 知識・理解
① 健康・安全に気を配り，積極的にダンスの学習に取り組もうとしている。 ② 互いによさを認めようとしている。 ③ 仲間の学習を援助しようとしている。 ④ 分担した役割を果たそうとしている。	① 課題に応じた練習方法を選んでいる。 ② 発表の場面で，仲間のよい動きや表現などを指摘している。	① 多様なテーマから，表したいイメージを捉え，動きに変化をつけて即興的に表現できる。 ② ひとまとまりの表現にして踊るための動きができる。	① ダンスの特性や成り立ちについて，学習した具体例を挙げている。 ② 表現の仕方について学習した具体例を挙げている。 ③ ダンスに関連して高まる体力について，学習した具体例を挙げている。

(2) 指導と評価の計画

時	指導内容	評価規準
1	<p>ねらいⅠ 創作ダンスの特性と単元の学習内容を理解し、見通しをもたせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 創作ダンスの特性や学習の流れを理解させる。 2 ダンス映像でイメージを膨らませる。 3 アドバイス学習の学び方を確認させる。 4 スムーズに主運動へつなげるための体づくり運動や基本的な動きを身に付けるためのドリルタイムについて理解させる。 	アー①
2	<p>ねらいⅡ 多様なテーマからイメージを膨らませて、思い浮かぶ特徴的な動きを即興的に表現させる。</p>	アー① エー①
3	<p>学習するテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な生活や日常動作（スポーツ、働く人、学校生活） ・ 対極の動きの連続（走る－跳ぶ－転がる、走る－止まる、伸びる－縮む） ・ 多様な感じ（激しい、やわらかい、軽快、急変） 	アー③ イー②
4	<ol style="list-style-type: none"> 1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。 2 表現したいイメージを捉えやすくなるようにさせる。 3 イメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現させる。 	ウー① エー②
5	<p>ねらいⅢ</p>	アー④
6	<p>既習のテーマから、自分たちの好きなテーマを選択し、ひとまとまりの動きで表現させる。</p>	アー③
7 (本時)	<ol style="list-style-type: none"> 1 体づくり運動やドリルタイムを積極的に行わせる。 2 多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付け即興的に表現させる。 	アー② イー①
8	<ol style="list-style-type: none"> 3 仲間とともに変化のあるひとまとまりの表現にして踊らせる。 4 よりよい作品になるように、踊り込みをさせる。 	ウー① エー②
9	<p>ねらいⅣ 作品を発表させるとともに、グループの発想や動きのよさを互いに評価させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仲間や他のグループの動きを見せ合うことで交流させる。 2 仲間のよいアイデアや表現に声をかけるなど、互いの個性や表現を認め合わせる。 	アー② ウー② エー③

5 本時の実際（7／9）

(1) 単元名 ダンス（創作ダンス）

(2) 学習目標

- 多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ることができるようにする。（技能）
- ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。（態度）
- ダンスの特性を理解し、課題に応じた取り組み方を選択することができるようにする。（知識、思考・判断）

(3) 「判断基準」の設定

評価規準	「運動についての思考・判断」 ○ グループの課題を見付け、課題に応じた表現の仕方を選んでいる。
評価の場面	○ 展開時における話し合いタイムⅡの場面
評価の対象	○ 話し合いタイムⅡにおける発言内容 ○ 学習カードへの記述内容
判断の要素	ア イメージを捉えた表現の仕方 イ グループの課題把握 ウ 課題に応じて根拠をもって表現の仕方の選択

尺度	判断基準
B	ア イメージを捉えた表現の仕方から、他者の動きの課題に気付き、指摘したり、助言したりしている。 イ グループで表したいテーマを基にイメージを捉えた動きになっているか話し合っている。 ウ グループの課題に応じて根拠をもって表現の仕方を選んでいる。
	【予想される生徒の表現例】 ○ 「走る」の競争でのゴール場面が見ている人に分かりづらいから、もっと大きくスローモーションで表現してみよう。 ○ 「風」の激しい感じをもっと出すために、全員で足踏みを合わせながら前に進んで表現してみよう。
	【C状況の生徒への補充指導】 ○ イメージを捉えた動きを学習資料や示範から再確認し、課題に気付かせる。 ○ 教師の観察から生徒の課題を把握し、発問により課題に応じた表現の仕方を選択させる。
A	(B状況に加えて) ○ グループの課題に応じて根拠をもって表現の仕方を工夫することができる。
	【B状況の生徒への深化指導】 ○ ICTや学習資料を活用させ、グループの課題に応じて選択した表現の仕方を組み合わせる。 ○ 発問により、課題をより明確にさせ、選択した表現の仕方を工夫させる。

(4) 判断基準Bに到達させるための指導

ア 教師の関わり方の工夫

(ア) 思考・判断を促す発問

(イ) 効果的なタイミングで行う肯定的・矯正的かつ具体的なフィードバック

イ アドバイス学習や話し合いタイムの工夫

(ア) 表現したいイメージを捉えやすくするための学習資料を提示

(イ) アドバイス学習や話し合いタイムの効果的な学び方の定着

(ウ) 課題に応じた表現の仕方を選択するための学習資料の活用

(5) 授業の展開

 : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	判断基準Bに到達させるための指導
導入	15分	一斉	1 学習の準備や安全点検をする。 2 整列, あいさつ, 健康観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> 用具や練習場所の安全確認を行う。 出欠・健康状態の把握, 見学者へ指示をする。 使用する部位を意識しながら行わせる。 今までの表現の仕方を意識させながら行わせる。 	判断基準Bに到達させるための指導 イー(7) 表現したいイメージを捉えやすくするためのポイントを確認させる。 ア- (7) 学習目標のねらいに気付かせる発問をする。
		個人・ペア	3 類似の運動をする (ドリルタイム)。 ・ ストレッチ ・ エアロビクス (イメージを即興的に表現する。)		
		一斉	4 学習目標, 学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イメージを捉えたひとまとまりの動きを考え, 表現することを楽しもう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標, 学習の流れを理解させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">イメージを捉えたひとまとまりの動きを考えるために, 必要なことは何だろうか。</div>	
展開	13分	グループ	5 話し合いタイムⅠを行う。 テーマや前時に選択した表現の仕方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> グループのテーマや選択した表現の仕方を確認させる。 発問からグループのテーマを確認し, 課題に応じて表現の仕方が選択できているか観察する。 仲間の動きを見て, 改善点等を指摘や助言しているか観察する。 仲間と連携した動きで, 表現できているか確認する。 	イー(4) 話し合いタイムの行い方を再確認させる。 ア- (7) どのような課題から表現の仕方を選択したのかを発問により確認する。 ア- (4) 賞賛や激励などの言葉掛けを行う。
			6 グループごとに創作を行う。 ・ イメージを明確にし, 創作を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 具体的に捉えたイメージを伝え, 教師や仲間に動きを見せ, 助言をもらう。 イメージを捉えたひとまとまりの動きになっているか指摘する。 		
			7 チャレンジタイムを行う。 ・ これまでに創作したひとまとまりの動きを音楽に合わせて表現し, お互いに評価する。		
	5分	1グループ	8 話し合いタイムⅡを行う。 ・ グループの動きを確認する。 ・ グループの課題を見付け, 課題に応じて次時の表現の仕方を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ICTを使って創作した動きを確認させ, 課題を見付けさせる。 学習資料を活用させ, 次時の表現の仕方を選択させる。 観察から生徒の課題を把握し, 発問により課題に応じた表現の仕方を【補充指導】発問により, 課題をより明確にさせ, 選択した表現の仕方を工夫させる。【深化指導】 	イー(7) 次時における表現の仕方を課題に応じて選択しているか学習資料で確認させる。
終末	10分	一斉	9 学習の評価・反省をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イメージを捉え, 変化のあるひとまとまりの動きにして, 仲間とともに楽しむことができる。</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">イメージを捉えたひとまとまりの動きを考えるために, 必要なことは何だったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 次時の学習の見通しをもたせる。 体調に変化がないか意識させる。 健康状態を把握する。 後始末を指示し, 確認する。 	ア- (7) 学習目標と対応させてまとめさせる発問をする。
		一斉	10 次時の学習内容について確認する。 11 整理運動をする。 12 健康観察, 後始末, あいさつをする。		